

平成27年度
事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ

【理事会開催日】 平成28年5月26日
【評議員会開催日】 平成28年5月26日

《 目 次 》

基本理念		1
経営理念		1
サービス方針		1
組織図		2
法人沿革		3
法人概要		3
事業報告	法人及び事務局	4
	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム	11
	デイサービスセンター サムフォット	22
	居宅介護支援事業所 ポム	29
	小規模多機能型居宅介護支援事業所 サイト	32
	デイサービスセンター サイト	38
	ショートステイセンター サムフォット	44

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 基本理念

一隅を照らす

— 与えられた役割を担って、価値を認められしっかりと存在する —

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 経営指針

利用者・家族に優しい施設を目指します

(すべてを含め、利用者、家族に優しい)

地域社会への貢献を目指します

(社会福祉法人に求められている一つに地域貢献があり、保育所や小中学校との連携)

施設の充実と発展をめざします

(施設とは、狭義では職員であり、職員の充実が施設の充実になる。職員間の連携を強化し技の向上等資質を高めていく)

平成17年1月4日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
理事長 武政 茂子

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ サービス方針

■ 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム

Sweet service (スウィート サービス)

(良きサービスは残しつつ、一歩先のやさしいサービスを提供します)

Heart to heart (ハート トゥ ハート)

(すべてのことに心のこもったサービスを提供します)

Home away from home (ホーム アウェイ フロム ホーム)

(第二の我が家のような居心地のよいサービスを提供します)

■ デイサービスセンター サムフォット

Service And Management For Old Timers

(齢を重ねゆく方々に心のこもったサービスと手助けを)

■ 居宅介護支援事業所 ポム

Peace Of Mind

(心からの安心をあなたに)

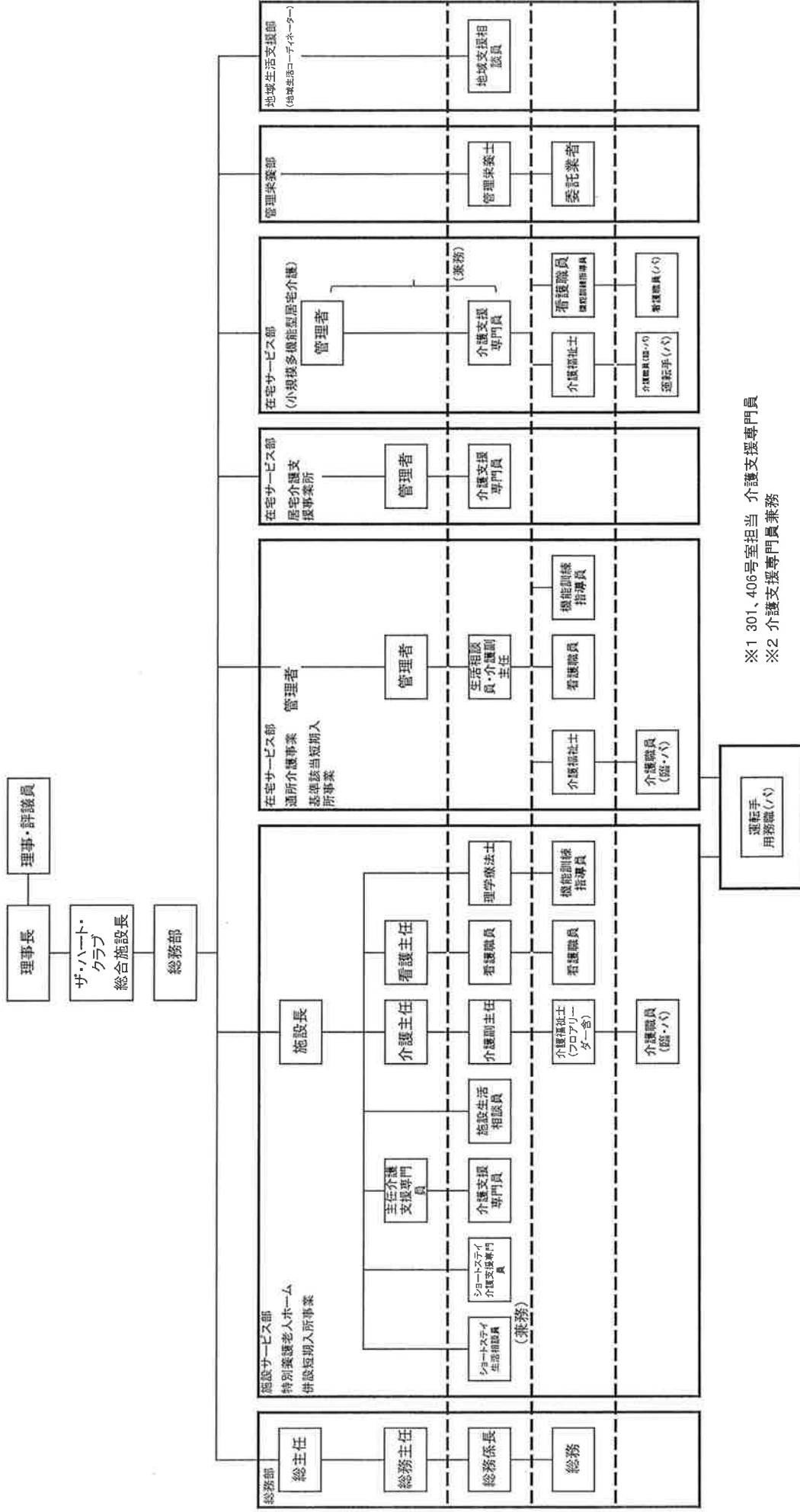
■ 在宅介護支援事業所 サイト

Settle In This Area

(住み慣れた地域で暮らす)

平成26年3月16日 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
理事長 武政 茂子

社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 組織図 (平成27年7月1日)



※1 301、406号室担当 介護支援専門員

※2 介護支援専門員兼務

《 法 人 沿 革 》

平成 5 年 3 月 22 日	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立認可
3 月 25 日	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ設立登記
6 月 23 日	建物着工〔日本自転車振興会、高知県、高知市補助金〕 〔医療法人厚洋会寄付〕
平成 6 年 3 月 31 日	建物竣工
4 月 1 日	高知市在宅介護支援センターかもだ 事業開始 高知市ホームヘルパー 派遣事業開始 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 事業開始
6 月 1 日	ショートステイ 事業開始
7 月 1 日	デイサービスセンター サムフォット 事業開始
平成 8 年 4 月 1 日	『ホームヘルパーステーションかもだ』と名称変更
平成 9 年 4 月 1 日	デイサービスセンター サムフォットにてホリデイサービス開始
平成 11 年 7 月 31 日	高知市在宅介護支援センターかもだ 事業廃止
平成 12 年 3 月 31 日	高知市ホームヘルパー 派遣事業廃止
平成 12 年 4 月 1 日	介護保険施設として事業開始(3事業)
平成 18 年 4 月 1 日	介護予防サービス事業開始(介護予防通所介護、介護予防短期入所生活介護)
平成 24 年 3 月 1 日	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 増床 (特養30床・短期入所生活介護6床)
平成 24 年 6 月 1 日	居宅介護支援事業所 ポム 事業開始
平成 26 年 3 月 24 日	小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 事業開始 デイサービスセンター サイト 事業開始 ショートステイセンター サイト 事業開始

《 法 人 概 要 》

平成28年3月31日

【 法 人 名 】	社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ
【代表者役職氏名】	理事長 武政 茂子
【 理 事 数 】	6名
【 監 事 数 】	2名
【 評 議 員 数 】	13名
【事務所の所在地】	〒780-8061 高知県高知市朝倉甲64番地1
【 電 話 番 号 】	088-840-7100(代表)
【 F A X 番 号 】	088-840-7480
【事業の名称・種類】	特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム 介護老人福祉施設 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護 デイサービスセンター サムフォット 通所介護 介護予防通所介護 居宅介護支援事業所 ポム 居宅介護支援 小規模多機能型居宅介護事業所 サイト 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター サイト 通所介護 介護予防通所介護 ショートステイセンター サイト 短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護
【管理者役職氏名】	総合施設長 犬丸 佐保 施設長 伊東 健一

平成27年度 社会福祉法人 ザ・ハート・クラブ 事業報告

第1章 法人及び事務局

1. 法人

法人の実務・財務に関して、透明性のある健全経営を行うことに努め、法人発行の広報誌及びホームページを通じて情報公開を行い、ホームページは1年間を通じて月平均3回の更新をすることが出来た。

広報誌においては、平成28年度は、広報誌のオールカラー化を行うことで、掲示方法やレイアウトの幅が広がる為、ご利用者の表情や掲載内容を色付きのイラストや写真等を活用し、視覚的に見やすく伝わりやすくなるよう工夫する。また、写真等の掲載時には、個人情報の取り扱いには十分注意しながら、引き続き最新情報を発信できるように、更新回数や内容の充実が図れるよう広報活動に対する意識付けを行っていく。

また、南海地震等災害時に備えて、災害時における利用者の安全確保に向けた地震発生時の避難訓練を実施した。平成28年度は、4月に熊本地震が発生し、高知県においても南海地震が発生する確率が高くなってきているのではないかと危惧するところである。そのため避難訓練や救急法講習の開催以外にも、備蓄食料品等の入替え時期を確認しながら炊き出し訓練等を行い、生命の安全を第一に考え実践に即した訓練を実施し、災害等緊急時における体制強化に努める。

2. 事務局

法人職員の増や新規事業の開始に伴う事務的な業務が、労務管理システムを導入することで効率的に管理する体制を整えられたことや、産休職員の復職や事務職員の補充を行うことで、役割分担を行い特別個人情報の指針策定や初期対応もスムーズに出来た。今後は、職員から取得した情報を安全に管理できるよう、セキュリティ専用機器の導入や管理区域・取扱担当者を決めて人事労務管理の強化を行っていく。

また、介護保険収入においては、平成27年度の報酬改定によりマイナス2.27%の改定率があった為、人員配置や体制強化を行い新設の取得可能な加算はできるだけ取得できるように努め、併設ショートステイは、ショート専属の機能訓練員を配置することで個別機能訓練加算を、居宅介護支援事業では、3名以上のケアマネと主任ケアマネの配置により特定事業所加算を、小規模多機能居宅介護事業では、全登録者に対して訪問活動を月200回以上実施することにより訪問体制強化加算と、ご利用者の状況に応じて地域との連携や交流を実施することによる総合マネジメント体制強化加算をそれぞれ取得することが出来た。

各介護保険事業の稼働率や加算取得率の把握に努め役付会の資料として提示することにより、役職者の情報共有と共通認識を行ったが、感染症蔓延の長期化によるショートステイの稼働率低下は防ぐことができなかった。今後は、これまで以上に稼働率や利用者の健康管理などに対する意識を高く持ち、各部署が連携し事業運営の安定化に向けて取組んでいく。

平成28年末までに職員のストレスチェックに対する取り組みを実施する必要がある、専用ソフトの導入や担当者の設置等、法人全体で働きやすい環境作りに取り組んでいく。

3. 各委員会の取り組み（職員研修）

職員の質の向上と介護保険施設としての役割と責任意識を持つため、また、今後の介護保険を取り巻く状況の情報収集を行うため、施設外研修への積極的な参加に努めた。

また、ご利用者の生活の質の向上を図るため、介護力向上委員会を中心に各委員会が連携し、不適切ケア・

自立支援・認知症ケア・個別ケアのケア技術の向上に努めた。

新人職員の介護力向上の為、移乗介助等の基本的な介護技術の取得に努めたが、事故発生件数は1年間で昨年度よりは7件減少しているが、199件起きており、転倒・滑落による事故は1年間に109件発生し全体の約55%を占めている。その都度検討し転倒リスクの高い方にはベッドからの離床対応にはコールマットや離床センサー等を活用するなどの対策を取っているが、自己にて移動可能な方もいるため活動範囲も広く、対応が困難なケースもあり、引き続き対応方法を検討していく必要がある。誤薬に関する事故は8件発生し昨年度より4件増加している。服薬介助担当職員の初歩的な確認ミス等の人為的な原因によるものになっており、安全・安心な生活の提供が出来たとは言えない状況であった。

また、平成27年度における法人職員の入退職者については、25名が入職したが、17名が退職となっており、法人全体の離職率は14.5%となっている。離職者に関しては、入職後6ヶ月未満が全体の41%、1年未満では70%となっている事から、異職種からの転職者や新人に対しては特に相手を受入れ、教える側も共に成長していける環境と姿勢が重要となってくる。

平成28年度も、引き続き根拠に基づいたケアの実践と質の向上を目指し、ご利用者の自立支援を目標に基本的なケア方法等の習得に努めるとともに、各所属部署において具体的なケア方法や技術を身につける事ができるよう新人教育と人材育成のため積極的に取り組む。

4. 事故発生時の対応に関する取り組み（苦情対応）

苦情受付担当者・苦情解決責任者を置くとともに、入居者・利用者の相談窓口を設置し、その都度適切な対応に努めた。また、苦情対応規程の見直しを行い、意見箱の設置場所を広報紙に掲載し広く周知することで、苦情に対する体制の充実をはかった。

また、苦情としては3件の申し出があり、送迎車の運転マナー1件と、ご家族に対する職員の対応や他の利用者対応をしていた為気がつかずに対応ができなかったことによる要望2件となっている。その都度適切な対応と改善に努め、サービス検討会等において周知し意識統一を図ったが、職員の意識改革のため職員相互間での注意しあえる環境作りが必要である。事故発生時・事故後には、本人・家族に対して担当職員等がお見舞いやお詫びを行うなどの初期対応を実践し本人・家族との良好な関係作りを心がけている。

職員は日頃からのより良い関係性の構築と危機意識を常に持ち、誠意ある対応に努めていく。

5. 非常災害対策

火災に関する定期的な防災訓練を、事業計画どおり年2回の実施を行うことが出来た。また、平成28年度は震災時における事業継続計画（BCP）を活用し、災害時における対応を法人として、一体的な取り組みとして避難訓練や炊き出し訓練のほかにも、備蓄品の在庫確認や緊急時の連絡体制や救急法の講習会を各事業所合同で開催し、生命の安全を第一に考え実践に即した内容で訓練等を通じて、緊急時における個々の対応力の向上や体制整備の強化に努める。

【 理事会開催状況 】

開催年月日	出席者数 ／定数	議 題	理 事 (欠席者氏名)	監事出席有無 (出席者氏名)
平成27年5月21日	6／6	第1号議案 評議員の選任について		大石 敏夫 渡辺 泰方
平成27年5月21日	6／6	第1号議案 平成26年度 事業報告の承認について 第2号議案 平成26年度 会計報告の承認について (監査報告) 第3号議案 施設長の選任について 第4号議案 就業規則の変更について		大石 敏夫 渡辺 泰方
平成27年9月17日	4／6	第1号議案 任期満了に伴う評議員の改選(案)について	濱宇津 邦子 竹村邦夫	渡辺 泰方
平成27年9月17日	4／6	第1号議案 平成27年度 第1回補正予算(案)について	濱宇津 邦子 竹村邦夫	渡辺 泰方
平成28年3月24日	4／6	第1号議案 平成28年度 事業計画(案)について 第2号議案 平成27年度 第2回補正予算(案)について 第3号議案 平成28年度 当初予算(案)について 第4号議案 特定個人情報取扱規程について 第5号議案 就業規則の変更について 第6号議案 定款の変更について 第7号議案 経理規程の変更について	犬丸 佐保 濱宇津 邦子	渡辺 泰方

【 評議員会開催状況 】

開催年月日	出席者数 ／定数	議 題	評 議 員 (欠席者氏名)	監事出席有無 (出席者氏名)
平成27年5月21日	12／13	第1号議案 平成26年度 事業報告の承認について 第2号議案 平成26年度 会計報告の承認について (監査報告) 第3号議案 施設長の選任について 第4号議案 就業規則の変更について	山崎 且幸	大石 敏夫 渡辺 泰方
平成27年9月17日	9／13	第1号議案 任期満了に伴う評議員の改選(案)について 第2号議案 平成27年度 第1回補正予算(案)について	濱宇津 邦子 竹村 邦夫 山崎 且幸 武政 賢洋	渡辺 泰方
平成28年3月24日	7／13	第1号議案 平成28年度 事業計画(案)について 第2号議案 平成27年度 第2回補正予算(案)について 第3号議案 平成28年度 当初予算(案)について 第4号議案 特定個人情報取扱規程について 第5号議案 就業規則の変更について 第6号議案 定款の変更について 第7号議案 経理規程の変更について	犬丸 佐保 濱宇津 邦子 橋本 誠 西山 由理 犬丸 善博 浜田 志津香	渡辺 泰方

【職員研修】(施設内)

実施年月	研修会名	研修内容	参加職種
平成27年 4月	全体研修会	不適切ケアについて①	全職種
	第1回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
5月	法人職員説明会(サービス検討会)	平成27年度の目的等	全職種
	全体研修会	マナー研修	全職種
	第2回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
6月	全体研修会	感染予防・食中毒・手洗い研修	全職種
	救急救命講習	AED・心肺蘇生法・応急措置	全職種
	消防避難訓練	昼間想定の火災避難訓練	全職種
	第3回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
7月	全体研修会	ポジショニング研修	全職種
	第4回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
8月	第5回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
9月	第6回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
10月	第7回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
11月	全体研修会	看取りケアについて	全職種
	全体研修会	不適切ケアについて②	全職種
	第8回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
12月	合同消防訓練	夜間想定の火災避難訓練	全職種
	全体研修会	看取りケアについて	全職種
	全体研修会	感染予防について(インフルエンザ・ノロウイルス)手洗い研修	全職種
	全体研修会	医行為について(胃ろう・吸引)	全職種
	第9回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
平成28年 1月	第10回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
2月	全体研修会	不適切ケアについて③	全職種
	第11回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種
3月	全体研修会	不適切ケア・事故防止・高齢者虐待について④	全職種
	全体研修会	看取りケアについて	全職種
	第12回口腔ケア指導	歯と健康について	全職種

合 計 2 8 回

【職員研修】(施設外)

実施月	研修会名	研修内容	参加職種
平成27年 4月	西部地区ブロック学習会	平成27年度介護報酬改定について説明	居宅ケアマネ
	高知県老人福祉施設協議会 総会・講演会	平成27年度介護報酬改定について	施設長・総主任・事務主任
5月	西部地区ブロック 5月研修会	改正点と今後の展望	居宅
	第1回中央Bブロック 栄養士勉強会	業者の方による勉強会(ネスレ日本)	管理栄養士
	介護力向上講習会	身体的自立支援の基礎知識と理論	介護職員
	高知市居宅介護支援事業所協議会総会	研鑽報告、事業計画、予算	居宅ケアマネ
6月	介護支援専門員更新研修(Ⅰ)	ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方等	ケアマネ
	高知県社会福祉法人経営者協議会総会	法人経営視点での事業継続計画	理事長
	第1回中央Bブロック 生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	地域貢献の取り組みについて	相談員・ケアマネ
	高知県食と栄養の会	総会、研修会	管理栄養士
	地域包括支援センター職員初級研修	介護予防ケアマネジメントに関する講義及び演習	ケアマネ
	認知症はじめての一步研修会	認知症の人の体験	介護職員
7月	介護支援専門員更新研修(Ⅰ)	ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方等	ケアマネ
	高知県医療関連感染対策研修会	医療機関における医療安全管理体制について	看護職員
	介護実習意見交換会	介護実習意見交換会	介護主任・介護副主任
	地域密着ケア・地域包括ケア全国研修会	地域拠点としての機能充実とさらなる地域貢献を目指す	管理者・介護職員
	介護保険施設等集団指導	実地指導結果等からみた運営基準上の留意点について	施設長・総主任・相談員・総務・管理栄養士
	四国老人福祉施設関係者研究大会	地域を支え、地域と歩む社会福祉法人	総主任・機能訓練員
	中堅職員ファーストステップ研修	中堅職員の立場と役割	デイ介護職員
	介護力向上講習会	事例検討 水分ケアを中心に	介護職員
8月	介護支援専門員更新研修(Ⅱ)	生活困窮者自立支援制度について等	ケアマネ
	食と栄養の会	機関誌編集委員会	管理栄養士
	平成27年度認定調査員新規研修会	要介護認定等に関する基本的な考え方等	相談員
	平成27年度経営戦略セミナー	加算算定解釈・実務・様式記入総点検(特養、短期入所、通所介護、居宅介護)	総主任・介護職員・総務
	食と栄養の会	運営委員会	管理栄養士
	平成27年度社会福祉法人会計研修	法改正と新会計移行処理の実務	総務主任
	平成27年度高知県老人福祉協議会 21世紀委員会	東・中央A・中央B合同ブロック会	総合施設長・総務主任
9月	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅰ	尊厳を守るとはどのようなことかなど	介護職員
	人の尊厳を考えるベーシック研修Ⅱ	尊厳のある生活を守るために必要な知識、技術など	介護職員
	社会福祉法人の地域貢献のあり方研修会	地域貢献の取り組みについて	施設長・総主任
	第2回中央Bブロック 生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	介護報酬改定後の各施設の取り組み・進捗状況について	ケアマネ・生活相談員
	平成26年度入国外国人介護福祉士候補者及び受入れ施設担当者学習説明会	日本語学習専門家による講義等	介護主任・介護副主任・総務・EPA
	食べるを支援する 基礎研修	おいしく健康的な食べるを支援するために	管理栄養士
	平成27年度認定調査員現任研修会	要介護認定調査の基本(評価軸の考え方)等	相談員・ケアマネ
	中央ブロック 事務職員勉強会	介護報酬改正後の現状と課題等について	総務主任・総務
	福祉サービス苦情解決セミナー	福祉サービス苦情	生活相談員
	介護力向上講習会	事例検討 歩行を中心に	介護職員
10月	平成27年度認知症介護実践リーダー研修	講義、現場実習	介護職員
	介護支援専門員実務従事者基礎研修	ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方等	ケアマネ
	全国老人福祉施設研究会議 山形会議	2025社会保障大改革(介護新時代)は、現場の力で!	管理者・機能訓練員
	施設内感染対策研修会	施設における感染症対策	看護師・介護職員
	リスクマネジメント研修会	リスクマネジメントの意義と基本	生活相談員
	第42回国際福祉機器展	第42回国際福祉機器展	総主任・介護主任
	事務職員研修会	マイナンバー制度について他	総主任・総務主任
	食と栄養の会	高知の食材を上手に使うおいしく減塩	管理栄養士
	介護基本研修会	いのちと健康を守るための姿勢とはなど	介護職員
	中間管理職研修会	中間管理職の役割とは	相談員・介護職員

10月	マイナンバー実務対応セミナー	マイナンバー制度概要の解説など	総主任・総務主任
	OJT研修会	職員育成の基本となるOJTの具体的な手法を学ぶ	生活相談員
11月	高知県高齢者こころのケアサポーター養成研修	高齢者のメンタルヘルスについて	相談員・看護師
	全国老人福祉施設大会 東京大会	財政学から社会保障を構想する他	施設長・相談員
	実践リーダー研修	実習報告・修了式	総主任・介護職員
	第3回中央Bブロック 栄養士勉強会	経口維持加算について	管理栄養士
	介護保険についての基礎理解	介護保険についての基礎理解	介護職員
	機関誌編集委員会	機関誌編集委員会	管理栄養士
	介護福祉実習連絡協議会及び第4回介護福祉実習報告会	介護福祉実習連絡協議会及び第4回介護福祉実習報告会	管理者
	介護力向上講習会	事例検討 総括研修	介護職員
	失語症会話パートナー養成講座	話そう！失語症の人と！心が通じ合う喜びとともに	介護職員
12月	生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	BCPの取り組み・福祉避難所の受入れについて	ケアマネ・相談員
	身体介護・生活介助研修会	食事・排泄・更衣・入浴・褥瘡予防など、生活場面に即した介助方法の意味を考える	介護職員
	学習支援事業 集合研修	始めよう！介護福祉士国家試験対策	介護職員
	福祉人材確保支援セミナー	採用活動で「集める」「口説く」「フォローする」力を高める	施設長・総主任
平成28年 1月	平成27年度認知症介護実践者研修	平成27年度認知症介護実践研修「実践者研修」	介護職員・看護職員
	社会福祉法人改革セミナー	社会福祉法人改革の今後の動向・対応について	施設長
	全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会「全国大会」	「楽しい介護」現場職員がイキイキするリレートーク	管理者・介護職員
	介護力向上講習会	事例検討 排泄・歩行を中心に	介護職員
2月	中国・四国地域大会	地域において何をするか 等	機能訓練・相談員
	高知県社福経営者協議会臨時総会	社会福祉法人制度改革対応セミナー	理事長
	総会・高知県カントリーミーティング	介護現場におけるリスクマネジメント	施設長・相談員
	運営委員会開催について	見学研修会について	管理栄養士
	デイサービスセンター研修会	介護報酬改定後の現状と今後の戦略について	看護師・相談員
	四国老協セミナー	地域包括ケアにおける現状と今後の課題等	施設長・管理者
	社会福祉法改正と決算実務に関する研修会	有効な内部統制構築の考え方 等	総主任・総務主任
	社会福祉施設総合保険制度の説明会	平成28年度の社会福祉施設総合保険制度について	総主任・相談員
	認知症ケア研修	認知症に関する知識(症状や治療)とケア方法について	ケアマネ
	給食関係者研修会	最近の食中毒動向と食中毒事故における危機管理体制について	管理栄養士
	第3回中央B 栄養士勉強会	県指導監査について	管理栄養士
	平成27年度高齢者福祉事業経営セミナー	新しい総合事業の展開のポイント等	総主任・管理者
	高齢者虐待防止研修会	虐待を起こさない組織づくりと管理者の役割	管理者・ケアマネ
	3月	高知県老人福祉施設協議会栄養士研修会	経口維持加算にむけた取り組み
介護支援専門員・生活相談員研修会		これからの社会福祉施設に求められる地域貢献のあり方について	相談員・ケアマネ
第4回研修会開催について		リスク管理に、仕事に、そして生活に役立つ伝える力を磨く	管理栄養士
医療的ケア研修教員講習会		医療的ケアの基礎 等	看護師
介護力向上講習会		事例検討 排泄・歩行を中心に	介護職員

合 計 8 4 回

第2章 特別養護老人ホーム スウィート・ハート・ホーム(短期入所生活介護含む)

1. 食 事

管理栄養士による栄養管理のもと、特養入居者に対しては栄養ケアマネジメントの充実を図るため食事委員会を毎月開催し、個々のその時々状態に合わせ食事形態の変更や、栄養補助食品の検討等を行い低栄養の防止に努めた。また、ご利用者の嗜好調査、食事サービス向上委員会等の活動を活発にし、季節や行事に合わせた食事を提供した。胃ろう、ペースト食、キザミ食のご利用者に対しては食事委員会と介護力向上委員会が連携を取り、常食化への取り組みを行い、食への関心を高め、利用者に喜ばれる食事内容に努めた。入居者・ご利用者の多様なニーズに対しては、食事委託会社との密なる連携に努めた。

2. 入 浴

入居者・ご利用者一人ひとりの持てる力を最大限活かした介助、援助を心がけ、清潔の保持による心身の解放感・充実感の提供に努め、週2回以上の入浴又は清拭を実施し、皮膚の状態観察を行い発赤・褥瘡等の早期発見・治療に努めた。また、拒否のあるご利用者に対しては入浴日以外にも声かけを行い、清潔保持の為に可能な限りの対応として個々の希望に応じた個別対応をした。

平成27年度は、疥癬の蔓延もあり、予防衣や手袋を使用することで、職員が媒介者になることを防ぐとともに、入浴時の直接的な皮膚接触による感染予防に努めた。

3. 排 泄

入居者の生活の質の向上を図るため、排泄委員会と介護力向上委員会が連携し「水・栄養・排泄・運動」の取り組みを行い、日中はトイレで排泄してもらえよう個別の排泄パターンに合わせた随時誘導を原則としてトイレ誘導を行っている。また、施設独自の「排泄の理念」と介護力向上講習会で学んだ「オムツはずしの定義」に沿ったケアを実践し、積極的に取り組みを行っている。

4. 機能訓練

専従の理学療法士の配置、毎週一回の外部からの理学療法士による機能回復訓練と3ヶ月毎の評価の実施、機能訓練計画に基づいた個別訓練等を実施し、個々の残存機能の維持を図るため介護職員と共同による機能訓練の充実を努めた。また、重度化により機能訓練が困難だった方に対して、歩行訓練や可動域訓練等の訓練内容の充実を図ることが出来た。

5. 健康管理

嘱託医の診断のもと、それぞれの健康に留意したバイタルチェック、健康診断、通院、投薬介助等入居者の健康維持、管理に取り組んできた。また、適正時期にインフルエンザ予防接種を実施し、ノロウイルス等の伝染性疾病にも留意し、感染予防対策として「うがい・手洗いの励行」・「マスクの着用」に努めたが、平成28年1月・4月にインフルエンザA型・B型が発症した。1月は職員のみが発症であったが、4月はインフルエンザB型にご利用者3名が感染し入院となった。また、職員間においてもインフルエンザの感染者は出たが、すぐに出勤停止等の措置を取

り蔓延防止に努めたため、一斉に職員が感染することはなく業務遂行にもほとんど支障がなかった。

昨年5月より疥癬が蔓延し終息するまでに1年かかった。今回の経験を活かし、インフルエンザ等だけでなく、様々な感染症に留意し、感染症流行時期等も踏まえ、今後はより一層ご利用者の感染予防や健康管理に努めていく。

6. クラブ活動・レクリエーション

レクリエーション・クラブ活動は、単調になりがちな入居生活に変化をもたらし、また、ご利用者の自立支援の点からも重要な活動であり、季節感を取り入れた行事レクや生け花教室、職員によるゲーム、遠足等外出レクを取り入れ全体的なバランスを取れる計画を立て、今年度は2年ぶりの外出レク（初詣・花見）が実施出来た。また、感染症予防の為、毎日のレクリエーションにおいては音楽鑑賞等が多くなり充実した内容とまではいかなかったが、状態が落ち着くに連れて計画表に基づいたレクリエーションを実施し少しでも楽しみある生活の支援が出来た。同じ内容ばかりにならないように楽しみのある生活を送って頂けるように努める。今後も内容の充実に努めるとともに、外出プログラムの実施等の個別ニーズにも可能な限り対応に努め、また、ご家族と一緒に参加してもらえらる様に遠足や夕涼み会、クリスマス忘年会などの行事案内を発信し、行事への呼びかけを積極的に行っていく。

7. 介護職員の医行為に関する取り組み

「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部が改正されたことにより、医療行為（喀たん吸引・経管栄養）の必要な入所者に対して、介護職員による医行為の実施ができるようになり、50時間に及ぶ研修を外部（民間）教育機関との連携により、継続的・計画的な研修を実施し参加している。今後も引き続き研修等を通じ、介護のプロとしての意識と専門性を高めることに事により、安全・安心して施設での生活を過ごしていただけるように努める。

介護職員が、喀痰吸引が出来るようになってきたことで、夜間におけるご利用者の負担軽減とオンコールによる看護職員の負担軽減につなげることが出来た。

8. 看取り介護に関する取り組み

施設において看取り介護を実施する為に看取りケア委員会を中心に、施設内研修を通じて看取り期に必要な介護の基礎知識や実践方法の習得に努めた。また、実際に看取り介護を経験することにより、その方らしい終焉を迎えていただくために必要な知識や視点を学ぶことができた。さらに各部署間や医療機関等と連携し、ご本人及びご家族の意向に沿ったサービス提供ができるように努めた。平成27年度は3名の方に対して看取りケアを提供する事が出来た。

9. 口腔機能維持に関する取り組み

摂食及び嚥下障害のあるご利用者に対し、適切なケアを行う為、定期的に歯科医師による口腔ケア指導は実施出来たが、歯科衛生士等専門職による月4回の口腔ケアは実施することが出来なかった。定期的に口腔内の衛生環境のチェックができ、入れ歯等の異常の早期発見にもつながっていたが、歯科衛生士の体制が整わなかったことにより、月4回の口腔ケアが実施出来なかった為、それまでに習得した口腔機能の基礎知識や実践方法を活かし、毎食後の口腔ケアの実施・健

康増進に努めた。

今後も引き続き歯科医師・歯科衛生士との連携を行い、加算取得に努めていく。

10. ショートステイ

ショートステイ利用者については、ご利用者の在宅生活の継続や介護者の介護負担軽減等を図ることを、地域社会への貢献と位置づけ、積極的な受入を行ったが、感染症の蔓延による影響が大きく、ご家族の希望による利用中止や他施設への移行があり、平成27年度の平均利用人数は前年度対比16%減となった。

平成27年度は、退院直後に自宅に帰れるまでの期間や緊急ショート依頼に受入れ等、新規利用者獲得を行ったが、定期利用者の急な長期入院や施設入所や感染症発生により一時受け入れ中止となるご利用者もおり稼働率が低下した。

平成28年度は、ショート担当相談員や在宅サービス管理者による外部居宅事業所への営業活動強化を行い、稼働率を向上させ目標の87%を目指し、より一層意識して取り組みを行う。

(1日平均利用率は、平成26年度84.4%に対し平成27年度68.0%)

(27年度上半期の稼働率は80.0%、下半期の稼働率は55.8%。年間の平均値として68.0%となっている。)

○特別養護老人ホームの加算取得状況について

特別養護老人ホームの加算取得率状況については、加算取得一覧表の通りとなっている。平成27年度の入院者は年間69名と昨年より15名多く、延べ入院日数も昨年度と比べ142日多くなっている。長期間の入院になると稼働率が低下する。そのことが収入面の減収につながっている。

入院時に発生する入院加算は6日分を上限とされ、収入が居室料の自己負担分のみとなり安定した収入にはつながらないと考える。このように入院外泊加算・初期加算・療養食加算のように変動性があるものより、日常生活継続加算等その他の変動性のない加算を多く取得するためには、日頃の体調管理と骨折等の重篤な事故を少なくすることで入院期間や入院者を減らし稼働率を確保することが効果的である。

また、口腔機能維持管理体制加算においては、入院者以外の全員から加算取得できているが、口腔機能維持加算は歯科衛生士の体制が整わなかったことにより、加算取得ができなかった。早い段階での再開により、専門職により定期的に入居者の口腔内を確認してもらうことが、早期の異常の発見・治療につながり、健康維持にも大きく関わっている。以上の事から長期入院者を減らし、加算取得率を向上させるためにはご利用者に健康的な生活を送ってもらうことが重要であり、そうすることが安定した稼働率の確保につながると考える。